

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401764		
法人名	株式会社 ハートケアライフ		
事業所名	グループホーム ハートケアライフ八軒		
所在地	札幌市西区八軒5条西3丁目3番26号 (電話) 644-4165		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年 1月30日	評価確定日	平成20年2月15日

【情報提供票より】(20年1月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤 1人,	常勤換算7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月9日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.4歳	最低	69歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おちあい内科・消化器科医院、藤丸外科整形外科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設総責任者である運営者はグループホームの理念の作成から日常のケアに至るまで積極的に係わり、職員とともに日々研鑽しながら良質のホーム作りを目指している。職員の研修は様々な外部研修の機会にできる限り参加し、レベルアップを図っている。利用者の日々の暮らしについては、詳細な記録があり、家族へ報告し、介護計画に反映してその人らしく暮らせるように支援している。医療面では、毎週の看護師の往診、さらに隔週の医師の往診があり、利用者の健康管理に利用者のみならず家族も安心している。事業所の雰囲気は落ち着いて穏やかな暮らしが流れ、行事の中には雪まつり見学や温泉1泊旅行も実施され、利用者の楽しみとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の明示については、見やすい位置に掲示されている。また、利用者の権利・義務は重要事項説明書に加えられて改善されている。換気、空調の配慮は各居室に温度、湿度計が設置されている。継続的な研修の受講はできる限り外部研修に出席して学びを深めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設から2度目の評価で、職員は全員で自己評価の項目について話し合い、課題を見い出して検討し、さらに継続して改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今までに数回開催した運営推進会議で町内会との連携がより充実し、情報がスムーズに流れて、町内の行事に利用者と職員と参加するようになった。地域の方々との交流が深まりつつある。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の様子は「ハートだより」で写真を入れて家族に送っている。さらに、日常生活ぶりを記録によって報告している。また、利用料の受け取りを事業所窓口とし、家族の来訪によって、職員と会話をする機会を持ち、意見を聞いて運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は町内会に加入し、町内行事のみならず日常のゴミ出しなど地域住民と親しい係わりをもっている。新年会には出席可能な利用者は参加して楽しい交流の場を共有した。散歩途中の声掛けなど自然体になってきた。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から事業所独自の理念を作りあげ、盛沢山に「ハートある ふれあいと支え合い」として明文化されているが、地域密着型サービスとしての内容は不足している。	○	理念の中に地域密着型サービスの視点を考慮して、文章化されることの取り組みを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員は理念を印刷したカードを常時携帯し、確認しながら日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入し、行事をはじめ日常的に交流を持ち、利用者と職員とは馴染みの関係が作られている。新年会には利用者と職員が参加して楽しい交わりを体験した。近隣中学生の社会学習の実習先となり、利用者と中学生と交流もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設から評価についての意義を話し合い、職員全員で自己評価の項目に取り組み、課題を模索して、具体的な改善点について今後も検討を継続して質の向上を目指している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設から数回開催した運営推進会議は回を重ねる毎に町内会との連携が良好となり、町内の行事に利用者と職員が参加し、地域の人々と交流が持てるようになった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は行政の方々と連絡を持ち、報告のみでなく、指導を頂き、ケアの質の向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ユニットごとに独自の「ハートだより」を作成し、家族に利用者の暮らしぶりを知らせている。さらに、ユニット別の方法で個別に詳しい記録を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の利用料の支払いは事業所窓口扱いとし、月に1度は家族が来所する仕組みになっている。その際、職員は家族と話をして意見や感想などを聞いて運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は開設からできるだけ職員の異動を避けるよう取り組み、全職員が利用者に係わるようにしている。一部の入れ替わりは影響のないように配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1度開催されるカンファレンスで職員の資質の向上に取り組んでいる。外部の研修に出席し、研修内容はレポートで報告し、共有して職員のレベルアップにつなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一区内のグループホーム管理者会議に参加し、相互に情報の交換など交流の機会をもっている。職員の交流までには至っていない。	○	管理者のみで職員の交流や相互訪問などの取り組みはまだない。今後の取り組みを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人は勿論、家族もともに見学や体験、話し合いに十分時間を掛けて、納得の行く状態でサービスを開始し、馴染みの関係作りを支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と時間をともにすることで、同じ家族として過ごし、労わり合って学んだり、支えられたり仲良く助け合って暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子から言葉があって会話ができる利用者とは希望や意向を把握し、言葉が不十分な利用者とは言葉にならない気持ちを受け止め、本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットの職員全員が利用者に係わり、より良く暮らすために利用者本位の介護計画を作成し、毎月の会議で十分話し合っている。家族が参加して介護計画を作成する時もある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活記録を参考にして、現状に即した介護計画に見直しをしている。概ね3ヵ月を目途に話し合いをしている。しかし、状況が変化したときは随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の外出希望に家族が対応できないときには、事業所の職員が要望に応じて本人本位に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、事業所で毎週看護師、隔週に掛り付け医師の往診を受診し、不安なことは気軽に相談できる関係が作られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始の契約時に、重度化した場合の対応指針にもとづき同意書を確認をし、実際に重度化した場合に個別の相談をしている。できる限りは事業所で対応したいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに尊厳を持って対応し、プライバシーを損ねるような係わりはしていない。個人の記録などは、鍵のあるロッカーを使用して保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に1日の流れはユニットで予定しているが、利用者本位に柔軟に対応し、希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂に続く台所では利用者が気軽に手伝いができる配置になっていて、食事をめぐって会話や笑い声があり、食事は利用者と職員の団欒の場になっている。また、片付けなど自発的に手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事業所の中心付近にある浴室は、利用者の希望に合わせて入浴できるように、堅苦しい取り決めはなく、週に2～3回入浴を支援している。介護度の高い利用者には職員が2名付き添い入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の体験を活かして、できること、できそうなこと、好んですることなどを個別に把握して充実感のある取り組みを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期間は外出が困難になるが、できる限り散歩や買物など外出の機会を多く作るように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入口には鈴を付けて戸の開閉が把握できるような工夫がされている。また、利用者が外出する時は職員が引率し、日中は鍵を掛けていない。夜間のみ玄関は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定して避難訓練を年2回実施している。地域住民の協力が得られるように働きかけをしている。訓練の記録も整備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事や水分量、そのほか様々な記録は詳細に記載されている。献立は職員が作成し栄養面など専門の点検はされていない。	○	献立の内容など栄養士や専門家の点検があるとさらに充実すると思われる。関係機関と連絡することが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅に囲まれた事業所は明るく日当たり良く、特に居間など利用者の共用の場所は、生活感があり、利用者の写真がはってあり落ち着いて過ごせる場になっている。居室前の廊下も幅広く車椅子対応となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の個室は本人の馴染みの調度品を持ち込み、居心地良く過ごせるようになっている。床に布団を敷いて横になっている利用者もいる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。